



# 市民組織と協働してひらく理科実験講座 —大学・地域・行政の連携—

京都薬科大学

河野 享子\*、高尾 郁子\*、大谷 有佳\*、神田 悟\*\*、川勝 章広\*\*、北出 達也\*

\* 学生実習支援センター  
\*\* 企画・広報課

## 目的と背景

本事業は、地域組織「山科区人づくりネットワーク委員会」の“子どもを育む熱い思い”を受けて始まった。開催5年間の歩みの中で、大学教職員は地域の一員として市民組織との対話を重ね、企画立案と実践を通して地域住民と共に児童の感動や成長の一場面に立ち合い、地域連携を進めてきた。

### 市民組織との対話



## 実施概要

- ・子ども達が理科に興味を持つきっかけ作り。
- ・大学が有する教育財産を、広く地域社会に還元する。
- ・地域の市民組織と連携し、青少年の健全な育成に貢献する。

実施年月	対象学年	参加者数	応募者数
2011年10月	1～6年生	105名	約300名
2012年 9月	3～6年生	120名(付添者58名)	約450名
2013年 9月	3～6年生	122名(付添者61名)	約230名
2014年 8月	3～6年生	113名(付添者43名)	239名
2015年 8月	4～6年生	109名(付添者61名)	124名



## 大学 京都薬科大学

## 大学・地域連携ネットワーク

## 地域 市民組織：山科区「人づくり」ネットワーク実行委員会

### 教職協働

- 【教員】
  - ・実験の企画・立案
  - ・実施結果まとめ、追跡調査
- 【事務局】
  - ・広報活動
  - ・運営スタッフ間の調整



### 【構成団体】

- 【京都市教育委員会】
- 【京都市子ども会育成連絡協議会】
- 【日本ボーイスカウト京都連盟】
- 【山科青少年活動センター】
- 【山科醍醐こどものひろば】
- 【山科区地域女性連合会】
- 【京都市児童館学童連盟】
- 【山科区少年補導委員会】
- 【京都市退職校長会】
- 【民生児童委員協議会】
- 【小中学校PTA】 他

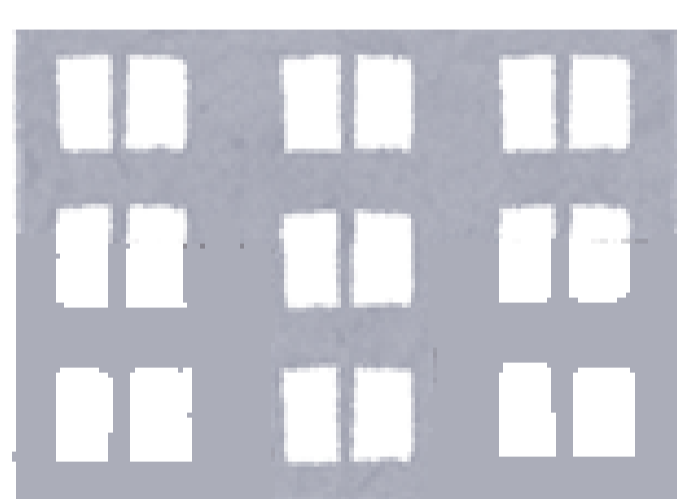


- ・参加者の募集
- ・参加者への連絡
- ・ボランティアの募集
- ・実施当日の運営

## 行政

## 山科区役所

## 教育委員会



- 【山科区役所】
  - ・地域連携に関する協定締結。後援。

- 【京都市教育委員会】
  - ・市民組織の事務局
  - ・大学との調整

教員 (学生実習支援センター)

市民組織

教育委員会 (市民組織事務局)



企画・広報課員 (大学事務局)

## 事業の特徴



学生実習支援センターの実験企画力とチームワーク



人づくりネットワーク実行委員会との入念な打ち合わせ



ボランティアスタッフへの事前ワークショップ



受付、全体の進行等は「山科人づくり委員会」が主導



ボランティアスタッフが実験グループ毎に付き、進行を補助



実験道具は、家庭にある身近なものを積極的に使用

## 成果

- ☆地域住民組織からの強い要望で始まったイベントが、大学の地域貢献活動の一つとして定着していった。
- ☆外部組織との円滑な連携を図るため、大学内で教育職員と事務職員が協働する意識が高まった。

### ☆表彰



2014年度「京都市はぐくみ憲章」実践推進者表彰



2015年度「きょうと地域力アップ貢献事業者」表彰

### ☆自治体との協定



2015年8月 山科区役所・京都薬科大学の地域連携に関する包括協定を締結

## まとめ

- ◎「子ども達の健全な育成」に関する市民の意識が高く、その期待に応えることを重要視して、地域と共に作り上げる事業としている。
- ◎実験内容の検討(大学)、参加者募集・実施当日受付や運営(市民組織)といった役割分担を行い、スタッフ全員が自立性をもって運営に参画している。
- ◎大学のアピールを控え、地域のイベントとして定着させている。

## ※今後の課題

- ・予算確保のため、外部資金獲得を目指して「子ども夢基金」(青少年教育振興機構)に助成申請中である。
- ・行政との連携に関して、区役所との協定を活かした連携をさらに充実させたい。
- ・学生の参画に関して、検討中である。

## ●謝辞

京都薬科大学・学生実習支援センター教員、小関稔博士、平山恵津子博士、木村徹博士、竹島繁雄博士は本事業の準備と実施にあたって、共著者と同様に協働いたしました。また、本事業は2012～2014年度山科“きずな”支援事業補助金交付対象事業の援助を受け実施いたしました。この場をお借りして、厚く感謝申し上げます。